

八十年近い歴史を持つ世界的な調査会社に、米国のギャラップ社があります。同社の調査対象には、人が何を考え、何を感じるかという、「質的な情報」が含まれます。その一つに、「人はどのような時に幸福を感じるか」があります。その回答例として、「自分が住む地域社会をより良くする活動に参加することで、幸福度は向上する」、「地域社会に関する幸福度が非常に高い人と平均的なレベルにある人の違いは、自分が住む地域社会にお返しをしているかどうかにある」などがあります。(ジム・ハーター、トム・ラス著『幸福の習慣』参照)

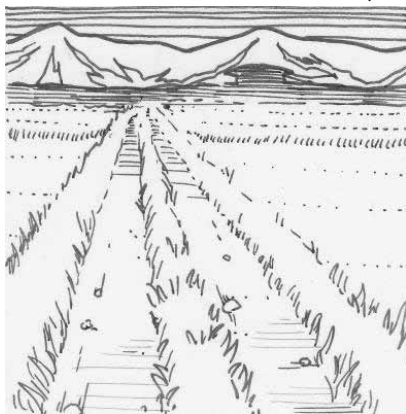
また、「誰かのために役立つ行動をして社会とつながりができると、自己中心的な世界に風穴が開き、重苦しい気持ちから解放される」ともいいます。

私たち人間は、本能によって動く部分があり、自分の心や行ないを自由自在に持つていくことが許されている一面があります。これを倫理運動の創始者・丸山敏雄は「自性(じせい)」と呼びました。

この自性を、右に用いるか、左にやるか。進む方向にむけるか、退く方向にむけるか。働きの動に行くか、怠けの静にかえるか。己のため己の自由、己の利益、己の好みのためにするか人のため、世のため、天のため、神のためにするか。そこで、すっかりと分かれてゆく。

(『実験倫理学大系』)

これはギャラップ社の調査結果にも似ています。自性を自分の利益や好みの方向に向けてばかりいると、それは苦しみの境遇に行き着き、その逆に地域のためや誰かの役に立つ行動を選択する時、幸福の世界に



自性の心で役を受け 責任を全うしよう

絵・今谷 鉄柱

たどり着くということの意味します。倫理法人会では、平成二十五年度がスタートしました。倫理法人会活動の要となる役員の方々に、辞令をお渡しする「辞令交付式」が各地で開催されています。今年度役職を受けられる方々は、全国で約一万八千名に上りますが、その辞令に対する受け止め方は様々です。

Tさんは、信頼する先輩から言われるままに、役職を受けました。その先輩から「倫理の役職はお世話役に徹すること」と教えられ、その通りにMSでもお世話役に徹しました。その役を繰り返す中で、それまで知らなかつた多くの人と出会い、自分の気持ち豊かになっていくことに気づくことができました。

Nさんは、会長職を受けました。「受けたからには」と全力で取り組んだところ、それまで赤字が続いていた本業がほどなく黒字に転じたのです。昨年度は会社設立以来、最高の利益を上げる結果となりました。Nさんは、「この本業の劇的な改善は、倫理法人会の役職を受けたことと別物ではないと確信しています。」

しっかりと受けた役の責任を果そうとする方がいます。やらされ感や押し付けられ感のみに覆われる方もいます。役職に対してどのような心で一年を費やすかは、当のご本人自身に委ねられています。ぜひ地域・企業の繁栄と日本創生につながる倫理運動の「役職」の意味を理解し、積極的に受け止めていただきたいのです。

お世話役を通して地域に貢献する時、そこには必ず幸福が用意されているのです。